

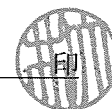
平成24年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 26 年 5 月 10 日

日 本 大 学 学 長 殿

氏名 大 井 眞 二

所属・資格 法学部・教授



下記のとおり提出いたします。

1 研究課題 メディア秩序の変革期におけるジャーナリズムのパラダイム転換に関する研究				
2 研究組織				
氏名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 大井眞二	法学部・教授	研究総括、調査設計、文献研究、聞き取り調査		
○研究分担者名 伊藤英一	法学部・教授	調査設計、聞き取り調査		
小川浩一	法学部・教授	調査設計、文献研究		
福田充	法学部・教授	調査設計、聞き取り調査、文献研究		
山本賢二	法学部・教授	調査設計、文献研究		
仲川秀樹	文学部・教授	文献研究、データ分析、聞き取り調査		
兼高聖雄	芸術学部・教授	調査設計、データ分析、文献研究		
小林義寛	法学部・准教授	調査設計、データ分析、聞き取り調査		
佐幸信介	法学部・准教授	調査設計、文献研究、データ分析		
宮脇健	法学部・助手	調査設計、文献研究、データ分析、聞き取り調査		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
伊藤英一	『ジャーナリズム&メディア』/「記憶する義務」から「忘れられる権利の時代へ」	5号	2012年3月	日本大学法学部新聞学研究所
大井眞二 宮脇健 福田充 佐幸信介 山本賢二	『大震災・原発とメディアの役割』/ グローバルな危機とジャーナリズム・スタディーズ 『大震災・原発とメディアの役割』/ 大震災の報道分析とメディア報道の評価 (大田区民) 『大震災・原発とメディアの役割』/ 災害報道とクライシス・コミュニケーション 『大震災・原発とメディアの役割』/ メディアの多元化と<安全>報道 『大震災・原発とメディアの役割』/ 福島原発事故をめぐる中国の社会的危機対応と輿論誘導		2013年1月	新聞通信調査会
大井眞二	『マス・コミュニケーション研究』/ 震災後のジャーナリズムスタディーズ	82号	2013年1月	日本マス・コミュニケーション学会
伊藤英一	『ジャーナリズム&メディア』/人と忘却と情報メディア	6号	2013年3月	日本大学法学部新聞学研究所
大井眞二	『ジャーナリズム&メディア』/2013年版日本のジャーナリスト調査を読む	7号	2014年3月	日本大学法学部新聞学研究所

小川 浩一	『ジャーナリズム&メディア』/テレビ 60 年 地域と民放	7号	2014年3月	日本大学法学部新聞学研究所
佐幸 信介	『ジャーナリズム&メディア』/テレビ 60 年 地域と民放	7号	2014年3月	日本大学法学部新聞学研究所
山本 賢二	『ジャーナリズム&メディア』/福島原発事故と 中国メディア	7号	2014年3月	日本大学法学部新聞学研究所
大井 眞二 小川 浩一 小林 義寛 佐幸 信介 福田 充 山本 賢二 宮 脇 健	『ジャーナリズム&メディア』調査研究報告書 2013年版「日本のジャーナリスト調査」を 読むー日本のジャーナリズムの現在	7号	2014年3月	日本大学法学部新聞学研究所

※ホームページ等での公開の（・否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
大井 眞 二	日本マス・コミュニケーション学会 (シンポジウム)	震災後のジャーナリズムスタディーズ			2012年6月	
大井 眞 二	日本大学法学部新聞学研究所 (シンポジウム)	2013年日本のジャーナリスト調査を読む —日本のジャーナリズムの現在 (基調報告)			2013年10月	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
平成 23 年 12 月 27 日朝刊 『日本経済新聞』「文化往来」						
平成 25 年 3 月 8 日夕刊 『毎日新聞』「キャンパる 大楽人」						
平成 25 年 10 月 21 日 「2013 年版日本のジャーナリスト調査」の記者発表及会見 日本記者クラブ						
平成 26 年 3 月 12 日 『SANKEI EXPRESS』 「メディアと社会」 (渡辺武達)						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
平成 25-27 年度 科研費 基盤研究 (B) 「メディア変革期におけるパブリック・コミュニケーションのパラダイム転換研究」 不採択						
平成 24 年度 公募委託研究費 (公益財団法人 新聞通信調査会)「大震災・原発とメディアの役割」 採択						
平成 26-28 年度 科研費 基盤研究 (B) 「パブリック・コミュニケーションの東アジアモデル構築に関する研究」 不採択						
7 他の研究への発展						
8 その他の成果						
研究代表者と分担者数名は, 本研究の主眼であるジャーナリズムのパラダイム転換を比較の視座から実証的に明らかにするため, 世界の 70 以上の国と地域が参加する Worlds of Journalism Study に参加し, 「2013 年版日本のジャーナリスト」調査を実施した。このプロジェクトの詳細は以下の URL を掲載されている。 http://www.worldsofjournalism.org						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名 称	知的財産の種類	発 明 者 (考案者・創作者)	権 利 者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

平成24年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成26年 5月 7日

日本大学学長 殿

氏 名 齋藤 稔



所属・資格 文理学部物理生命システム科学科・教授

下記のとおり提出いたします。

1 研究課題 匂いセンサを用いた匂いセンシングシステム・ロボットの開発				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 齋藤 稔	文理学部物理生命システム科学科・教授	匂いセンサの開発、生物嗅覚系の生理実験、研究の統括		
○研究分担者				
関根好文	理工学部電子情報工学科・教授	嗅覚系ニューラルネットワークのハードウェアモデルの構築		
内木場文男	理工学部精密機械工学科・教授	匂いセンシングシステム搭載マイクロロボットの開発		
佐伯勝敏	理工学部電子情報工学科・教授	匂いセンサの開発、嗅覚系ニューラルネットワークのハードウェアモデルの構築		
小松崎良将	理工学部物理学科・助教	生物嗅覚系の生理実験		
齊藤 健	理工学部精密機械工学科・助教	嗅覚系ニューラルネットワークのハードウェアモデルの構築、匂いセンシングシステム搭載マイクロロボットの開発		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合に掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Yoshimasa Komatsuzaki, Yusuke Hatanaka, Gen Murakami, Hideo Mukai, Yasushi Hojo, Minoru Saito, Tetsuya Kimoto, Suguru Kawato	PLoS One/Corticosterone Induces Rapid Spinogenesis via Synaptic Glucocorticoid Receptors and Kinase Networks in Hippocampus	7/4, e34124	2012年 4月	PLOS
Shinnosuke Asai, Katsutoshi Saeki, Minoru Saito, Yoshifumi Sekine	Proceedings of International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications/A Study on Odor Sensors Using Copper Phthalocyanine	C-W2-04, CD-ROM	2012年 7月	

齊藤健, 岡崎一人, 荻原龍矢, 高藤美泉, 佐伯勝敏, 関根好文, 内木場文男	電気学会論文誌 C/パルス形ハードウェアニューラルネットワークによる MEMS マイクロロボットの歩行動作制御	133/7	2012 年 7 月	電気学会
Minoru Saito, Yuuta Hamasaki, Makoto Hosoi, Shogo Nakada	Journal of the Physical Society of Japan/ Various Firing Patterns Found in a Giant Neuron of the Pond Snail <i>Lymnaea stagnalis</i> and Their Dynamics	82/3, 034801	2013 年 2 月	日本物理学会
Yuuta Hamasaki, Makoto Hosoi, Shogo Nakada, Tomoya Shimokawa, Minoru Saito	Open Journal of Biophysics/Fluorescence Voltage Imaging Technique for the Measurement of Molluscan Neural Activities	3/1A, 54-58	2013 年 3 月	Scientific Research Publishing
Minami Takato, Ken Saito, Fumio Uchikoba	Proceedings of International Symposium on Highly-Controlled Nano- and Micro-Scale Functional Surface Structures for Frontier Smart Materials 2013, Yokohama, Kanagawa, Japan/Insect Type MEMS Miniaturized Robot with Hardware Neural Networks Control System		2013 年 4 月	
Ken Saito, Minami Takato, Fumio Uchikoba	IGI Global Engineering Creative Design in Robotics and Mechatronics/Silicon Micro Robot with Neural Networks		2013 年 6 月	Engineering Science Reference
Ken Saito, Shiho Takahama, Shinpei Yamasaki, Minami Takato, Yoshifumi Sekine, Fumio Uchikoba	Proceedings of International Joint Conference on Neural Networks, Dallas, Texas, USA/IC Chip of Pulse-Type Hardware Neural Networks for Hexapod Walking MEMS Micro Robot		2013 年 8 月	
Minami Takato, Shinpei Yamasaki, Shiho Takahama, Junichi Tanida, Ken Saito, Fumio Uchikoba	Proceedings of the Twelfth European Conference on the Synthesis and Simulation of Living Systems/Insect Type MEMS Micro Robot Controlled by CMOS IC of Hardware Neural Networks		2013 年 9 月	
齊藤健, 高藤美泉, 関根好文, 内木場文男	日本ロボット学会誌/AI 制御によるバイオミメティクス MEMS マイクロロボット	31/7	2013 年 9 月	
Yuuta Hamasaki, Tomoya Shimokawa, Kohei Ishida, Yoshimasa Komatsuzaki, Satoshi Watanabe, Minoru Saito	Open Journal of Biophysics/Coherency Evaluation of Spatiotemporal Neural Activities in the Molluscan Olfactory Center Applying Extracellular Recording with Wavelet Analysis	3/4, 291-297	2013 年 10 月	Scientific Research Publishing

Shiho Takahama, Junichi Tanida, Minami Takato, Fumio Uchikoba, Ken Saito	Proceedings of the 39th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society, Vienna/Biomimetics Micro Robot with CMOS IC Neural Networks Locomotion Control		2013年 11月	
Kazuaki Maezumi, Shinpei Yamasaki, Hiroki Obara, Yuka Naito, Kei Iwata, Masaki Tatani, Yuki Okane, Yuki Ishihara, Tomohiro Hidaka, Yohei Asano, Hirozumi Oku, Minami Takato, Ken Saito, Fumio Uchikoba	Proc. of The Nineteenth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2014, B-Con Plaza, Beppu, Oita, Japan/ Hexapod-Type SMA Driven MEMS Microrobot with Mounted Bare Chip Artificial Neural Networks IC		2014年 1月	
Hidefumi Masumoto, Yuuta Hamasaki, Tomoya Shimokawa, Ken Saito, Minoru Saito	Information/Oscillatory Pattern Generation of the Olfactory Center Hardware Model of the Land Slug	17/2, 637-648	2014年 2月	International Information Institute
山崎薫, 島崎亮, 市川麻 衣, 小山内裕美, 斎藤稔	日本大学文理学部自然科学研究所紀要/ フロー型乳酸バイオセンサの開発とマウスの 脳内乳酸測定への応用	49, 299-303	2014年 3月	日本大学文理学部 自然科学研究所
櫻井翼, 中江佑太, 佐伯 勝敏, 関根好文	電気学会論文誌 C/メンブクロウに着目した2 次元音源定位用パルス形ハードウェア下丘外 側核モデル	134/3	2014年 3月	電気学会

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
島崎亮, 市川麻衣, 山崎薫, 斎藤稔	第 22 回バイオ・高分子シンポジウム	耐熱性酵素を用いた乳酸バイオセンサの開発	2012 年 6 月
Shinnosuke Asai, Katsutoshi Saeki, Minoru Saito, Yoshihumi Sekine	The 27th International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications	A Study on Odor Sensors Using Copper-Phthalocyanine	2012 年 7 月
鈴木章義, 小山内裕美, 松村佐智子, 千村尚穂, 斎藤稔	第 21 回日本バイオイメージング学会学術集会	マウス海馬スライスの CA1 領域における 様々な時空間活動パターンのレーザー共 焦点イメージング	2012 年 8 月
仲田正吾, 細井誠, 斎藤稔	第 21 回日本バイオイメージング学会学術集会	モノアラガイの咀嚼運動に関わる神経系 における神経活動の膜電位イメージング	2012 年 8 月
浜崎雄太, 下川智也, 石田康平, 斎藤稔	第 21 回日本バイオイメージング学会学術集会	チャコウラナメクジ嗅覚神経節における 神経活動パターンの膜電位イメージング II	2012 年 8 月
杉山克俊, 金森洋介, 浅井信ノ輔, 佐伯勝敏, 斎藤稔, 関根好文	平成 24 年電気学会 C 部門 大会	SAW センサを用いた二酸化窒素濃度測定 システムに対する検討	2012 年 9 月
浜崎雄太, 下川智也, 斎藤稔	第 35 回日本神経科学大会	チャコウラナメクジ嗅覚神経系に見られ る時空間活動パターンとその非線形解析	2012 年 9 月
山崎薫, 市川麻衣, 島崎亮, 向井秀夫, 斎藤稔	第 50 回日本生物物理学会 年会	フロー型乳酸バイオセンサの開発とその 脳内乳酸測定への応用	2012 年 9 月
下川智也, 浜崎雄太, 小松崎良将, 斎藤稔	第 50 回日本生物物理学会 年会	チャコウラナメクジ嗅覚神経系に見られ る時空間活動パターンとその非線形解析	2012 年 9 月
仲田正吾, 細井誠, 小松崎良将, 斎藤稔	第 50 回日本生物物理学会 年会	ヨーロッパモノアラガイの中樞神経系に おける神経活動の膜電位イメージング	2012 年 9 月
小山内裕美, 鈴木章義, 松村佐智子, 向井秀夫, 斎藤稔	第 50 回日本生物物理学会 年会	マウス海馬スライスの CA1 領域における 様々な時空間活動パターンのレーザー共 焦点イメージング	2012 年 9 月
田中裕一, 加藤功弥, 斎藤稔, 小松崎良将	第 50 回日本生物物理学会 年会	軟体動物ナメクジの嗅覚中枢における長 期活動ダイナミクス	2012 年 9 月
市川麻衣, 山崎薫, 島崎亮, 斎藤稔	第 2 回 CSJ 化学フェスタ 2012	フロー型乳酸バイオセンサの開発とその 脳内乳酸測定への応用	2012 年 10 月
浅井信ノ輔, 佐伯勝敏, 斎藤稔, 関根好文	平成 24 年度理工学部学術 講演会	SAW センサを用いた混合気体の選択性 に対する一検討	2012 年 11 月
田中裕一, 斎藤稔, 小松崎良将	平成 24 年度理工学部学術 講演会	チャコウラナメクジにおける嗅覚中枢の 長期活動ダイナミクス	2012 年 11 月

加藤功弥, 小松崎良将, 斎藤稔	平成 24 年度理工学部学術 講演会	モノアラガイの巨大ニューロンにおける 活動パターン	2012 年 11 月
下川智也, 浜崎雄太, 石 田康平, 斎藤稔	第 22 回非線形反応と協同 現象研究会	匂い刺激に対するナメクジ嗅覚神経系の 時空間活動パターン変化とその非線形解 析	2012 年 12 月
浜崎雄太, 小山内裕美, 鈴木章義, 斎藤稔	第 22 回非線形反応と協同 現象研究会	マウス海馬スライスにおける様々な時空 間活動パターンとその非線形解析	2012 年 12 月
増本秀史, 齊藤健, 斎藤 稔	第 22 回非線形反応と協同 現象研究会	ナメクジ嗅覚中枢の振動パターンを生成 するパルス形ハードウェアニューラルネ ットワークの検討 II	2012 年 12 月
杉山克俊, 浅井信ノ輔, 佐伯勝敏, 斎藤稔, 関根 好文	2013 年電子情報通信学会 総合大会	SAW センサを用いた二酸化硫黄濃度測定 に対する一検討	2013 年 3 月
加藤功弥, 小松崎良将	第 2 回日本生物物理学会 関東支部研究会	モノアラガイの味覚嫌悪条件付け学習に おける GABA 神経の関与	2013 年 3 月
原靖典, 小原広輝, 内木 場文男, 齊藤健	ロボティクス・メカトロニ クス講演会	生物の脳を模したパルス形ハードウェア ニューラルネットワークによるサーボモ ータ用 PWM 波形の生成	2013 年 5 月
Yuuta Hamasaki, Hiromi Osanai, Akiyoshi Suzuki, Minoru Saito	Neuro 2013	Various spatiotemporal activity patterns of mouse hippocampal slices and the nonlinear analysis	2013 年 6 月
Kohei Ishida, Tomoya Shimokawa, Yuuta Hamasaki, Minoru Saito	Neuro 2013	Spatiotemporal patterns of neural activities in the olfactory center of the land slug and the nonlinear analysis (II)	2013 年 6 月
Minami Takato, Masaki Tatani, Junichi Tanida, Shinpei Yamasaki, Ken Saito, Fumio Uchikoba	IEEE-International Ultrasonics symposium 2013	Piezo Impact Type MEMS Rotary Actuator and Application to Millimeter Size Robot	2013 年 7 月
Ken Saito, Shiho Takahama, Shinpei Yamasaki, Minami Takato, Yoshifumi Sekine, Fumio Uchikoba	International Joint Conference on Neural Networks	IC Chip of Pulse-Type Hardware Neural Networks for Hexapod Walking MEMS Micro Robot	2013 年 8 月
Minami Takato, Shinpei Yamasaki, Shiho Takahama, Junichi Tanida, Ken Saito, Fumio Uchikoba	the Synthesis and Simulation of Living Systems	Insect Type MEMS Micro Robot Controlled by CMOS IC of Hardware Neural Networks	2013 年 9 月

齊藤健, 高藤美泉, 山崎晋平, 前角和明, 小原広輝, 内藤友香, 岩田 蚩, 多谷大樹, 岡根佑樹, 石原優毅, 日高智浩, 浅野洋平, 奥大純, 関根好文, 内木場文男	電気学会	ニューラルネットワークベアチップを用いた MEMS マイクロロボット用の駆動波形の生成	2013 年 9 月
Shiho Takahama, Junichi Tanida, Shinpei Yamasaki, Minami Takato, Fumio Uchikoba, Ken Saito	電気学会	IC Implementation of Pulse-Type Hardware Neural Networks for Generation of Driving Waveform of MEMS Micro Robot	2013 年 9 月
小原広輝・原靖典・高藤美泉・内木場文男・齊藤健	電気学会	パルス形ハードウェアニューラルネットワークを用いたサーボモータのPWM制御波形の生成	2013 年 9 月
内藤友香, 山崎晋平, 高藤美泉, 内木場文男, 齊藤健	電気学会	MEMS マイクロロボットの歩行および旋回動作を生成するパルス形ハードウェアニューラルネットワークの構築	2013 年 9 月
杉山克俊, 佐伯勝敏, 斎藤稔, 関根好文	平成 25 年電気学会電子・情報・システム部門大会	SAW センサを用いた室内環境測定システムに対する一検討	2013 年 9 月
市川麻衣, 小山内裕美, 浜崎雄太, 斎藤稔	第 51 回日本生物物理学会年会	マウス海馬スライスの CA1 領域における様々な時空間活動パターンのレーザー共焦点イメージング(II)	2013 年 10 月
和泉翔大, 浜崎雄太, 小山内裕美, 斎藤稔	第 51 回日本生物物理学会年会	マウス海馬スライスに見られる時空間活動パターンに対する解析法の提案	2013 年 10 月
田中裕一, 江藤多門, 芳賀祥平, 斎藤稔, 小松崎良将	第 51 回日本生物物理学会年会	チャコウラナメクジの脳嗅覚中枢における自発振動活動の長時間相関解析	2013 年 10 月
相川裕貴, 仲田正吾, 細井誠, 小松崎良将, 斎藤稔	第 51 回日本生物物理学会年会	ヨーロッパモノアラガイの中枢神経系における神経活動の膜電位イメージング(II)	2013 年 10 月
山崎薫, 市川麻衣, 島崎亮, 斎藤稔	第 51 回日本生物物理学会年会	フロー型乳酸バイオセンサを用いたマウスの脳内乳酸測定	2013 年 10 月
Shiho Takahama, Junichi Tanida, Minami Takato, Fumio Uchikoba, Ken Saito	the IEEE Industrial Electronics Society	Biomimetics Micro Robot with CMOS IC Neural Networks Locomotion Control	2013 年 11 月

Kei Iwata, Yuka Naito, Yuki Okane, Yuki Ishihara, Kazuaki Maezumi, Minami Takato, Ken Saito, Fumio Uchikoba	平成 25 年度理工学部学術講演会	Development of Driver Circuit with Mounted CMOS IC Bare Chip for MEMS Micro-Robot	2013 年 12 月
Yuka Naito, Shiho Takahama, Shinpei Yamasaki, Kazuaki Maezumi, Yuki Okane, Tomohiro Hidaka, Kei Iwata, Minami Takato, Fumio Uchikoba, Ken Saito	平成 25 年度理工学部学術講演会	CMOS IC Design of Current Output-Type Hardware Neural Networks for MEMS Microrobot	2013 年 12 月
Kazuaki Maezumi, Minami Takato, Shinpei Yamasaki, Hiroki Obara, Yuka Naito, Kei Iwata, Masaki Tatani, Yuki Okane, Yuki Ishihara, Tomohiro Hidaka, Yohei Asano, Hirozumi Oku, Ken Saito, Fumio Uchikoba	平成 25 年度理工学部学術講演会	Development of Hexapod-Type MEMS Micro-robot with Mounted Bare Chip IC	2013 年 12 月
Masaki Tatani, Kazuaki Maezumi, Junichi Tanida, Hirozumi Oku, Yuki Okane, Minami Takato, Ken Saito, Fumio Uchikoba	平成 25 年度理工学部学術講演会	Development of MEMS Micro-Robot Using Piezo-Electric Impact-Type Actuator	2013 年 12 月
Kazuaki Maezumi, Shinpei Yamasaki, Hiroki Obara, Yuka Naito, Kei Iwata, Masaki Tatani, Yuki Okane, Yuki Ishihara, Tomohiro Hidaka, Yohei Asano, Hirozumi Oku, Minami Takato, Ken Saito, Fumio Uchikoba	The Nineteenth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2014	Hexapod-Type SMA Driven MEMS Microrobot with Mounted Bare Chip Artificial Neural Networks IC	2014 年 1 月
江藤多門, 芳賀祥平, 齋藤稔, 小松崎良将	第 3 回生物物理学会関東支部研究会	匂い刺激時におけるナメクジ嗅覚中枢・前脳葉の神経活動解析	2014 年 3 月

岡根佑樹, 前角和明, 高藤美泉, 内藤友香, 小原広輝, 浅野洋平, 石原優毅, 岩田蛭, 奥大純, 多谷大樹, 日高智浩, 齊藤健, 内木場文男	エレクトロニクス実装学会	ANN 制御システムを搭載した昆虫型 MEMS マイクロロボット	2014 年 3 月
石原優毅, 日高智浩, 内藤友香, 高浜詩帆, 前角和明, 高藤美泉, 内木場文男, 齊藤健	電子情報通信学会	神経細胞モデル用いたインパクト駆動型 マイクロロボット用駆動回路の CMOS-IC 設計	2014 年 3 月
内藤友香, 高浜詩帆, 高藤美泉, 齊藤健, 内木場文男	電子情報通信学会	ベアチップを用いた MEMS マイクロロボットを駆動するパルス形ハードウェアニューロンモデルの測定と評価	2014 年 3 月
日高智浩, 石原優毅, 前角和明, 内藤友香, 高浜詩帆, 高藤美泉, 齊藤健, 内木場文男	電子情報通信学会	人工筋肉アクチュエータで駆動する超小型ロボット用神経回路網の高集積回路設計	2014 年 3 月
小原広輝, 原靖典, 横山永凱, 高藤美泉, 内木場文男, 齊藤健	電子情報通信学会	興奮抑制ニューロン対モデルを用いた DC モータの速度変化	2014 年 3 月

5 本研究課題に関するその他の発表（新聞掲載等）

なし

6 本研究に関連して外部資金への申請状況，獲得状況

齋藤 稔：JST・A-STEP「医療・健康分野への応用を目指した匂いセンサの開発」（H24.10～H25.9）平成 24 年度申請、採択
 科研費 基盤研究（C）「医療・健康分野への応用を目指した匂いセンシングシステムの開発」（H25～H27）平成 24 年度申請、不採択
 内藤泰春科学技術振興財団/調査・研究開発助成「有機感応膜ガスセンサを用いた簡易 NO_x 測定装置の開発」（H26）平成 25 年度申請、不採択
 内木場文男：科研費 基盤研究（C）「ニューラルネットワーク IC 搭載無索化 MEMS マイクロロボットの開発」（H25～H27）平成 24 年度申請、採択
 佐伯勝敏：科研費 基盤研究（C）「柔軟でロバストな高集積デバイスの開発」（H25～H27）平成 24 年度申請、採択
 半導体理工学研究センター委託研究「地雷探査ロボットのための歩行制御用ニューロチップの開発」（H25.8～H26.7）
 小松崎良将：科研費 若手研究（B）「海馬シナプスに対する急性ストレス作用の *in vivo* 研究」（H25～H27）平成 24 年度申請、不採択
 JST・サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）「ナメクジが匂いを嗅ぎ分ける仕組みを調べる」（H26）平成 25 年度申請、採択
 齊藤 健：科研費 若手研究（A）「筐体にアナログ高集積化神経回路網を実装した MEMS マイクロロボットの開発」（H26～H28）平成 25 年度申請、不採択

7 他の研究への発展

なし

8 その他の成果

本研究では、生物の嗅覚神経系の生理実験を行い、その匂い情報処理機能をモデル化し、匂いセンシングシステム・ロボットの開発を行った。本研究をさらに発展させ、より広範な脳機能（認識・識別機能、学習・記憶機能、行動制御機能）の解明・モデル化、及びその工学的応用を目指した研究課題「数理物理学に基づいた生命システム動態の解明とその工学的再構築」（代表者：斎藤稔）が、平成 26 年度学術研究助成金[総合研究]に採択された。

9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況

名 称	知的財産の種類	発 明 者 (考案者・創作者)	権 利 者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日
なし						

平成24年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成26年5月22日

日本大学学長 殿

氏 名 小川 直宏



所属・資格 経済学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 研究課題 国民移転勘定（NTA）に基づく少子化・高齢化研究－日本を中心として				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 小川直宏	経済学部・教授	本研究を総括する		
○研究分担者 小巻泰之	経済学部・教授	国民所得勘定と NTA のリンクに関する研究		
宮里尚三	経済学部・教授	NTA における年金を中心とする公的移転の研究		
青木千賀子	国際関係学部・教授	NTA 研究におけるジェンダー導入とアジアの家族変遷		
清水浩昭	文理学部・教授 (平成 25 年 3 月 31 日退職)	世代内・世代間の私的移転に関する研究		
大井田隆	医学部・教授	医療に関する公的・私的移転分析		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Naohiro Ogawa, Andrew Mason, Sang-Hyop Lee, An-Chi Tung, and Rikiya Matsukura	Low Fertility and Reproductive Health in East and Southeast Asia / Very low fertility and the high costs of children and the elderly in East Asia		forthcoming	Springer
Naohiro Ogawa	The Oxford Handbook of the Economics of the Pacific Rim/ Age Compositional Shifts and Changing Intergenerational Transfers in Selected Asian Countries		2014 年	Oxford University Press
清水浩昭	統計／地域性からみた高齢者家族のゆくえ	63(9)	2012年9月	日本統計協会
青木千賀子	日本大学国際関係学部国際関係研究／ネパールの社会開発におけるマイクロファイナンスの活動とソーシャル・キャピタル	33(1)	2012年10月	日本大学国際関係学部
Osamu Itani, Yoshitaka Kaneita, Mika Ikeda, Shuji Kondo, Atsushi Murata and Takashi Ohida	Journal of Occupational Health / Associations of Work Hours and Actual Availability of Weekly Rest Says with Cardiovascular Risk Factors		2012年11月	J-STAGE

※ホームページ等での公開の (☑)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
小川直宏他	8th NTA Workshop	Population Aging and Intergenerational Transfers in Japan: An Update			2011年12月	
小巻泰之	8th NTA Workshop	Reassessment of NTA estimation from the viewpoint of SNA			2011年12月	
宮里尚三	8th NTA Workshop	Intergenerational Redistribution Policies of the 1990s and 2000s in Japan			2011年12月	
小川直宏他	日本人口学会	国民移転勘定における2つの support ratios について			2012年6月	
小巻泰之	地域経済活性化と無形資産の役割・ワークショップ	90年代の財政政策のリアルタイム検証			2012年8月	
小川直宏	Asia Regional NTA Conference	Rapid Aging and Changing Intergenerational Transfers in Asia's NTA Countries			2012年9月	
青木千賀子	日本比較生活文化学会	社会開発におけるソーシャル・キャピタルの活用ーネパールのマイクロファイナンスの活動事例からー			2012年11月	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
小川直宏「人口減社会を考える(下) 高齢化の「重荷」軽減が急務」 経済教室, 日本経済新聞 2012年11月9日 朝刊						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
平成24年度	科学研究費補助金 (特別推進研究)	申請,	否			
平成25年度	科学研究費補助金 (特別推進研究)	申請,	否			
平成25年度	科学研究費補助金 (基盤S)	申請,	否			
平成26年度	科学研究費補助金 (特別推進研究)	申請,	否			
平成26年度	科学研究費補助金 (基盤S)	申請,	否			
7 他の研究への発展						
国際的に評価が高く、多くの実績を残してきている NTA 研究であるが、現行のフレームワークの限界も認識されるようになってきた。人々はそれぞれの事情、例えば配偶関係、子供や介護すべき親の状況、所得や資産、自分の認知能力や健康状態等の下で、消費・貯蓄・労働供給・社会参加の意思決定を行うが、そうした人々の行動様式を理解するには、個人に関する包括的パネルデータが必要であると国際的に認識されている。しかし、現行の NTA の手法は定常性の仮定の下、平均的家計のライフサイクルとして考察されることも多く、そうした多様性を許容する枠組みを作ることには限界がある。そこで、本研究を通し、この多様性を NTA の枠組みに追加するためのアプローチの1つとして、NTA と日本初の中高年に対する世界標準パネル調査である「くらしと健康の調査 (JSTAR)」を併用しての新しい研究フレームワーク作りが推進されてきている。						
8 その他の成果						
なし						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・創作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

平成24年度 学術研究助成金〔総合研究〕 成果物報告書

平成 25 年 4 月 15 日

日本大学学長 殿

氏 名 豊川 和 治



所属・資格 教 授

下記のとおり提出いたします。

1 研究課題 中国の経済発展と日本及び世界への影響に関する研究				
2 研究組織				
氏 名	所属部科・資格	役割分担		
○研究代表者名 豊川 和 治	国際関係学部 教授	総括、日中の情報サービス産業の比較研究		
○研究分担者 秋山 孝 允	元国際関係学部 研究所教授 (平成25年3月退職)	中国の海外経済援助・直接投資とその影響研究		
岡本 博之	元国際関係学部 教授 (現 名古屋市立大学 特任教授)	中国のエネルギー需給の展望と世界経済の研究		
曾根 康雄	経済学部 教授	中国の金融システムの訴状化に関する研究		
陳 文 挙	国際関係学部 准教授	中国のサービス産業の発展の構造分析研究		
法専 充男	国際関係学部 教授	中国のマクロ経済分析 - 物価動向の研究		
村上 直樹	大学院総合科学研究科 教授	中国の人的資本の再配分のダイナミックスの研究		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
豊川 和治	『国際関係研究』: “日中の ICT 産業の比較研究”	第34巻 第2号	平成26年 2月	国際関係学部・国際 関係研究所
秋山 孝允	『平成24年度日本大学学術助成金総合研究シンポジウム報告書』: “中国対途上国関係と新しい開発パラダイム”		平成25年 1月	国際関係学部
岡本 博之	『国際関係研究』: “東アジアにおけるエネルギー協力体制の確立”	第34巻 第2号	平成26年 2月	国際関係学部・国際 関係研究所
曾根 康雄	『東亜』: “中国の金融システム改革のジレンマ”	No. 558	平成26年 1月	一般社団法人・ 霞山会
陳 文 挙	『国際関係研究』: “中国のサービス産業の発展に対する一考察”	第34巻 第2号	平成26年 2月	国際関係学部・国際 関係研究所
法専 充男	『国際関係研究』: “先進国のデフインフレと中国の物価動向”	第34巻 第2号	平成26年 2月	国際関係学部・国際 関係研究所
村上 直樹	『中国経済研究』: “中国における出稼ぎ農村労働者とその帰郷—誰が残り、誰が戻るか?—”	第10巻 第1号	平成25年 3月	中国経済学会

※ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
平成 25 年 1 月 25 日 日本大学国際関係学部において、本研究メンバーに中国河南大学など 4 大学から研究者 6 名を迎え、平成 24 年度日本大学学術助成金総合研究シンポジウム『中国の経済発展と日本及び世界への影響』を開催し、研究発表。						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
平成 26 年度 (2014 年度) 科学研究費 基盤研究 (B) 経済学分科に応募, 研究題目『大転換期にある中国経済に関する多面的・総合的研究』, 研究代表者: 法専充男。平成 26 年 4 月不採択。						
7 他の研究への発展						
8 その他の成果						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名 称	知的財産の種類	発 明 者 (考案者・創作者)	権 利 者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日

平成24年度 学術研究助成金〔総合研究〕成果物報告書

平成 26年 4月 30日

日 本 大 学 学 長 殿

氏 名 舩廣 善和



所属・資格 生物資源科学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 研究課題 細胞のリプログラミングや分化制御を目的としたケミカルバイオ技術の開発				
2 研究組織				
氏 名	所属部科校・資格	役割分担		
○研究代表者名 舩廣 善和	生物資源科学部・専任講師	研究の統括および推進 分解耐性/細胞膜透過性 RAR α による白血病 細胞分化法の確立		
○研究分担者 藤原 恭子	医学部・助教	TGF- β 発現を抑制する PI ポリアミドを用いた リプログラミング誘導系の確立		
花澤 重正	生物資源科学部・教授	Stabilon 融合細胞膜透過性山中因子および Glis1 発現系の確立		
津田 啓方	歯学部・助教	分解耐性 Foxp3 による制御性 T 細胞 (Treg) の分化誘導		
司馬 肇	生物資源科学部・准教授	タンパク質安定化モチーフ Stabilon の分解耐 性機構の解析		
3 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Tsuda H, Ning Z, Yamaguchi Y, Suzuki N.	Programmed cell death and its possible relationship with periodontal disease.	54(2)	2012年	J Oral Sci.
Tsuda H, Zhao N, Imai K, Ochiai K, Yang P, Suzuki N.	BIX01294 suppresses osteoclast differentiation on mouse macrophage-like Raw264.7 cells.	13(4)	2013年 11 月	Bosn J Basic Med Sci.

※ホームページ等での公開の(可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)						
発表者名	学会名	発表テーマ			発表年月	
大徳満隆、櫻井渉、中山隆太郎、小川裕子、舩廣善和、花澤重正	第35回日本分子生物学会	Negative Regulatory Mechanism of TIPE2 for TAK1 Signal			2012年12月	
中山隆太郎、大徳満隆、櫻井渉、小川裕子、舩廣善和、花澤重正	第35回日本分子生物学会	Cell-permeable TIPE2 Acts as a Negative Regulator of TLR4 Signal in Vivo			2012年12月	
舩廣善和、石井承子、宮寺真、寺沢達哉、峰岸紋子、花澤重正	第8回日本大学先端バイオフォーラム	分解耐性型細胞膜透過性タンパク質を用いた遺伝的に安全な細胞機能/分化調節系の開発～分解耐性モチーフ Stabilon の応用～			2013年11月	
宮本梓、小林笑久未、舩廣善和、花澤重正	第8回日本大学先端バイオフォーラム	細胞膜透過性 SOCS2 タンパク質による GH シグナルの抑制			2013年11月	
櫻井渉、鈴木範子、中野利沙、舩廣善和、花澤重正	第8回日本大学先端バイオフォーラム	TIPE2によるTAK1を介したシグナル抑制に関する研究報告			2013年11月	
津田啓方、趙寧、鈴木直人	第2回幹細胞研究フォーラム	BIX01294はRAW264.7細胞のRANKL誘導破骨細胞分化を抑制する			2013年1月	
Hirosasa Tsuda, Zhao Ning, Naoto Suzuki	43rd Annual Meeting & Exhibition of the AADR /38th Annual Meeting of the CADR	Two histone methyltransferase inhibitors suppress osteoclast differentiation of Raw264.7			2014年3月	
藤原恭子、相馬正義、永瀬浩喜	第22回癌病態治療研究会	E-box 配列認識PIポリアミドによる抗腫瘍効果の検討			2013年6月	
藤原恭子、相馬正義、永瀬浩喜	第72回日本癌学会学術総会	抗腫瘍効果を持つE-box 認識ピロロール・イミダゾール・ポリアミドの開発			2013年10月	
司馬肇、藪健史、桐原圭佑、間野伸宏、中西照幸	第35回日本分子生物学会	Involvement of Chaperone-mediated Autophagy in the Irreversible Process of Posterior Silk Gland Histolysis during Metamorphosis of Silk Worm Bombyx mori			2012年12月	
松浦裕太、藪健史、柴崎康宏、司馬肇、森友忠昭、中西照幸	第85回日本生化学会	ギンブナ CD8 陽性細胞傷害性 T リンパ球に発現するグランザイムの同定			2012年12月	
5 本研究課題に関するその他の発表 (新聞掲載等)						
6 本研究に関連して外部資金への申請状況, 獲得状況						
7 他の研究への発展						
本研究で使用したタンパク質分解耐性モチーフに関しては、ある試薬合成販売企業と市販を目標に共同研究することになった。						
8 その他の成果						
9 本研究課題による知的財産権の出願・取得状況						
名称	知的財産の種類	発明者 (考案者・創作者)	権利者	出願・登録番号	出願年月日	取得年月日